

第6期科学技術基本計画に向けた提言（ポイント）

令和元年6月21日
科学技術・学術審議会
国際戦略委員会

I. 科学技術の戦略的な国際展開の意義と基本的視点

- ・欧米先進国、新興国を含め科学技術活動はますます国境を越えて展開されるようになり、世界各国は国際研究ネットワークや国際共同研究を拡大。
- ・国際情勢が変化する中、我が国は、研究コミュニティに対する国際的な認知においても、質の高い相対的に安定したプレイヤーとして見られている可能性があるが、相対的な研究力低下、国際流動性の停滞が続けば、相対的地位も低下し、世界から取り残されて埋没してしまう危険性がある。

⇒ 世界の知と多様性を取り込み、我が国の国際競争力を維持・強化するため、また、世界の研究ネットワークの主要な一角に位置付けられ、国際社会における存在感を発揮するため、科学技術の戦略的な国際展開を図ることがますます重要。

第6期科学技術基本計画の5年間（2021年～2025年）は、科学技術の戦略的な国際展開を通じて、国際競争力を維持・強化し、国際社会における存在感を発揮する絶好のチャンス。研究力向上の観点からも、今、手を打つ必要。戦略的な国際展開について明確に基本計画全体の柱として位置付け、個別の項目を立てて、理念や詳細を記述する必要。あらゆる科学技術イノベーション政策の推進にあたっては、常に国際動向の分析の上でグローバルな視点を持ち、国際展開を行う中で戦略性を持って取り組んでいくとの視点を確保することが重要。

II. 今後特に重点的に取り組むべき事項

1. 国際活動の推進

○国際共同研究の抜本的強化

- ・国際共同研究の強化は、我が国の研究力向上の鍵
- ・相手国政府機関と協働する「第3階層」の国際共同研究を中心に、国際予算の拡充が必要
- ・国内向けとして実施されてきた研究プログラムにおいても、国際共同研究の推進を図る必要
→国際連携ノウハウの共有・蓄積を図りつつ、段階的に拡大

○グローバルに活躍する若手研究者の育成・確保

- ・若手研究者に対する海外研鑽機会の提供や諸外国の優秀な研究者の招へい等を引き続き実施
- ・海外に出て研究活動を展開する研究者等がその意向に応じ帰国後に円滑に研究を行うことのできる環境を整備

○ファンディング機関、大学・研究機関の国際化、拠点形成

- ・研究資金の配分と実務を担当するファンディング機関は優れた研究成果の創出に関して重要な役割を

担っており、ファンディング機関の国際活動の推進に係るリソースを継続的に強化し、制度、運用を国際化することを通じ、科学技術分野の研究全体の国際化を図ることが重要

- ・国内外の優れた研究者を惹き付け、世界最先端の研究開発を推進し、国際的に高く評価される研究を更に伸ばすために、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）や世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）等の取組による成果を、大学等組織内や他大学・研究機関へ横展開

2. 科学技術外交

- ・「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」の二つの側面から、科学技術外交を推進
外務大臣科学技術顧問の活動により科学技術外交が力強く進展
- ・先進国との間では、協力を行う分野、時期、方法をすり合わせ、海外の優れた研究資源を活用しつつ、我が国の研究力向上にも資する国際共同研究等を推進
- ・新興国及び途上国において、我が国の強みを活かしたインクルーシブな科学技術協力を実施
- ・双方の国において複数の大学が参加し、共通の関心のある分野・テーマを設定し、交流・協調行動を行う取組が近年成果をあげており、国として適切に推進
- ・科学技術の国際展開を図る上で、海外への知識・技術・人材等の流出防止策についても考慮しながら、海外の優秀な人材の受け入れ等による多様性の確保及び研究力の向上との両立を図ることが重要

3. STI for SDGs の推進

- ・国際協調と協力の下、我が国の科学技術イノベーション力を地球規模課題への対応に積極的に活用し、世界の持続的発展に主体的に貢献
SDGs を軸に STI 政策を進めることで、STI に好ましいインパクト
 - 共通目標・共通言語化
 - 我が国のイノベーションエコシステムの変革
 - 多様化する SDGs ニーズに対応することにより新たな科学技術の潮流が生まれる可能性
 - 科学技術イノベーションへのこれまでなかった人材層の動員
 - 科学技術政策に社会的価値という軸の創出
- ・SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）等の研究成果の社会実装に向け、相手国政府の協力を得た出口ステークホルダーとの連携・協働の促進などを通じ橋渡しスキーム（Joint Research and Joint Social Implementation model）を構築
- ・地域における様々なステークホルダーを巻き込み、地域課題解決に向けた STI for SDGs 活動を展開
国内のみならず、国境を越えてグローバルに展開、スケールアップし、我が国の強みを活かした科学技術の国際展開、国際市場の開拓